NAKANIHON AUTOMOTIVE COLLEGE

学友会 会報

第16号

発行　中日本自動車短期大学学友会事務局
〒505 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 TEL〈0574〉26-7121
FAX〈0574〉26-0840

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学
学友会会長　丹地章夫

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様には、益々御健勝で御活躍のことと、お慶び申し上げます。

平成九年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

母校に於かれましては、開学以来三十年という、記念すべき年を迎えられ、益々充実した人間教育がなされている事を心より嬉しく思っております。私も今、一期生として入学した頃の事を懐かしく思い出しております。あの頃はまだまだ、日本の経済自体が貧しく、今の様な車社会を予測する事すらままならない様な状況でした。

あれから三十年、世の中は目まぐるしい程の変化を遂げ、中日本短大も他に類をみない程の立派な学校になりました。

しかし、どんなに世の中が変わろうと、どんなに立派になろうとも、それを育てるのも壊すのも私達人間なのです。だからこそ今、人間教育の必要性を考えずにはいられないのです。若い皆さん、皆さんには充分な時間があります。それをより有効に活用して、今しかできない、今しか蓄えられない栄養をしっかりと自分の中に蓄えて下さい。やがていつの日か血となり肉となる事を信じて！かく言う私自身も多くの先輩達も皆、それぞれの立場で日々そうした努力を続けているのです。皆さんは今、日々の生活により発生した、それなりの喜びや悩みを抱えていませんか。ちょっと違った環境にいる人と話してみたいと思った事はありませんか。そう思ったら遠慮なく戸を叩いて下さい。きっと開かれます。

一人の力は弱くても他のほんの少しの力添えで大きな花も咲くのです。学友会は皆さんのその若い力とやる気を待っています。

十八才人口の急減に伴い、学生募集も厳しい時を迎えています。卒業生の皆さんの力強いお力添えを宜敷くお願い致します。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、ご援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄、特に学内在籍のOB諸兄に対しまして心より厚く御礼申し上げます。

学長あいさつ

中日本自動車短期大学
学長　有馬　泉

学友会の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。この機会に、大学の近況についてご報告します。

まず、今年度から新しく学生サービス質を設置しました。これは、学年毎のクラス担任を総括する部署で、大塚教授が室長に就任しました。そして、教員と学生が直接接触できる機会を作るため、毎週一回第五時限にクラスゼミナールを開講しました。これにより、学生個人個人あるいはクラス全体の学生の実態が早く把握でき、学生に対するきめ細かい指導ができるものと期待しています。特に二年生には、クラスゼミナールの時間に認定試験問題を中心に講義を行い、早い時期から学生が自動車整備士資格に関心を持つようにしました。また、杉谷教授が学生部長に、中島教授が図書館長に就任しました。

次に今年度の入学者数は、五四五名、内女子学生十二名、留学生四名です。新入生の出身県は、北は北海道から南は沖縄まで四十三都道府県に渡っています。また、留学生は、韓国四名です。今年度の入学者数は、定員の約一割減少ですが、十八才人口が右下がりで減少し、大学を取り巻く環境が厳しくなりつつある中、このように、留学生を含め全国各地から大勢の入学生を迎えることができましたことは、学友会の皆様方を始め、各方面からの厚いご支援の結果であると感謝致しております。また、同窓子女入学者は三名（内学士入学一名）です。学友会関係者に厚く御礼申し上げますと共に、今後とも、この同窓子女入試制度の一層の活用を御願い申し上げます。

なお、今年度からこの制度の他に、学友会推薦制度も設けましたので、詳細については、本学広報部にお問い合せ下さい。

さらに、昨年度の就職状況について報告いたします。全国の国公私立大学や短大を卒業した学生の就職状況は大変厳しく、文部省のまとめによりますと、就職率は、八十％台です。本学の場合、九十九％強という高い就職率が得られました。これは、本学創立以来一万六千人を越す学友会の皆様方のご活躍により、関係会社の本学に対する高い評価と深いご理解が得られているためと思っています。

最後になりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

近代的な実習教材の拡充
―全教室に視聴覚教育装置も―

事務局長　杉浦　禎宣

本学は今年で開学三十周年を迎えました。

一連のキャンパス整備計画も昨年を以て建物については一段落しましたので、今度は教材教具の充実です。三十周年記念行事の目玉としては、自動車整備実習教材の拡充を中心に、全教室に視聴覚教育装置を設備することが決まりました。

新入学生の教育に直ちに対応できるようにとの配慮から、既に四月には後者（視聴覚教育装置）の設備工事が終わりました。

全教室を対象として設備したもので、教員の皆さんの積極的な活用が待たれているところです。

教室の正面にメインスクリーンを引き出すことができ、写真や印刷物はもち論、部品の実物など任意の大きさのものを画面一杯に拡大映写できるビジュアルプレゼンターや動きを加えた説明にはVTRを使って、学生に教育的提示内容を具体的、直接的に印象深く理解させることを狙ったものです。

また、斜め正面のサブスクリーンを引き出し、OHPを併用した教育技法を駆使することもできるようになっています。

音響的補助手段の使えることがもち論で、全教室、全教科が対象ですから全般的な教育成果の向上に大きな期待が持たれています。

整備教育実習教材の方は夏休み中に全てを完了する予定ですが、新しい各種の計測器や大型トラック等のほかに、最新型のジーゼルエンジン燃料噴射装置及び試験装置と実習教育支援システムです。

特に後者はコンピュータを利用したもので、学生の個別データベースに基づいた適切な指導を目指したもので、教育の理想とする一対一の対面教育に等しい成果を実習教育からスタートさせ、全教科に及ぼして行こうとする本学の大きな「志」が込められています。

志願者減という厳しい環境の中で勝ち残って行くには、教育成果で勝負を賭け、「中日本」のイメージアップを図る以外、道はありません。皆さんも是非一度母校の新しい姿をご覧戴きたいと思います。

以上は皆さんはじめ多方面のご寄付によって実現したもので、改めて心より感謝の意を表します。

OB近況

第19期生
木野伸一さん

みなさんこんにちは。私は昭和六十二年に中日本を卒業しました。それからもう十年の歳月が流れ、私も三十歳になりました。私の学生時代の友人に聞くところによりますと短大の方も私が通っていた頃より、校舎などの施設も新しくなり、随分様変わりしたようですね。当時を思い出してみると夏は暑く、冬はとても寒いスレート葺き三角屋根の実習場でL型エンジンの分解組立をしたことや、毎日カレーライスを食べた学生食堂が強く印象に残っています。

現在私はニヤクコーポレーションという会社に勤務しています。仕事の内容はタンクローリーのドライバーですが、その為には大型・けん引免許の他に危険物乙四類の資格が必要になります。また今度から水素ガスなどを取扱うために移動監視・丙種化学の資格にもチャレンジしている最中です。この会社にも整備部門があり整備の資格も生かされています。私もいろいろな資格を取得しましたが、資格の必要性を短大時代に教えられた気がします。学校も創立三十周年、私も三十歳まだまだこれからです。

在校生より

専攻科
鈴木利彦さん

私が専攻科に入学した理由は、本科で出来なかったことをやってみたかったのと、私が一年生の時、先生の研究の手伝いが終わって帰る時、専攻科の先輩が夜遅くまで研究に取り組んでいた姿が印象に残っていたからです。

専攻科で何をするか、どういう事をするかは、自分達で決めて実行していきます。本科では授業のほとんどが必修ですが、専攻科では数えるほどしか必修科目はありません。それなのに専攻科生は皆、毎日学校へ来ています。人それぞれに目的があってやっていますが、それが研究であったり、実験だったりといろいろと楽しみながら学校へ来ています。

この専攻科での二年間をどの様に過ごし楽しむか、また短い二年間になるか長い二年間になるか、これからにかかっています。これから先の二年間を頑張っていきたいと思います。

二年
吉川直輝さん

私がこの学校に入学し、最初は期待と不安で一杯でしたが早いもので、一年が過ぎました。

幼い頃から自動車が好きで、色々な本を読んだりして多少の事は知っているつもりだったけど、授業が進んでいくうちに知らない事がたくさんでてきて、改めて自動車は奥が深く難しいと思いました。

実習の授業では、エンジンの分解、組付けやトランスミッション、ディファレンシャル、ブレーキなどの構造を習い、何もかもが新鮮な気分でした。

そして今は、二年になって勉強も難しくなり、九月からの二級講習をひかえて、そして、来年三月の二級整備士の国家試験をひかえて、とても不安になる時があります。先日、六年か七年前の卒業生の人の話を聞く機会があったのですが、来年三月の二級の試験が、一生のうちで、最初で最後のチャンスだと思って、取り組めば必ず良い結果が出ると言われました。

私自身も後になって後悔はしたくないので、誰のためでもなく、自分のために頑張ろうと思います。

認定試験の合格率

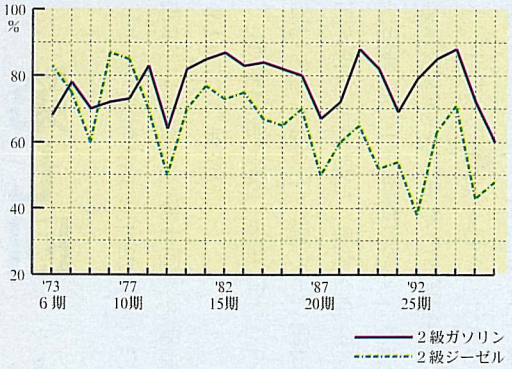
技術研修課

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。

今年は、第二十九期の学生が本学にで三月二十三日に受験しました。その結果合格率は、二級ジーゼルが四十九・七%で昨年を若干上回ったものの、二級ガソリンでは六十・六%と過去最低の結果となりました。グラフは六期生からの合格率を表します。

本年度は、一人でも多く合格できるよう、努力していきたいと思っています。

OB諸兄の今後の活躍を期待します。



1996年度事業計画

事業担当幹事

1. **総会の開催**
大学近辺で行う。開催の日程・場所については役員会にて決定する

2. **開学三十周年記念事業について**
一、開学三十周年寄付を行う
二、開学記念事業の調査を行う
三、三十周年記念名簿作成に向けて調査をする

3. **会報の発行**
従来通り発行する

4. **支部設立に向けて一層積極的な取組を展開する。また既存の支部の活性化を図る**

5. **キャンパスグッズの一層の充実を図る**
試作品を作る。三十周年記念グッズを含めて考える

6. **大学との懇談会を行う**

7. **準会員との交流会を持つ**
予定　十月中頃

8. **講演会の開催**
研究家・専門家等の講演を行う
日時　十月二十六日（予定）
会場　中日本自動車短期大学213教室
講師　端信行（国立民族学博物館教授）
演題　人類にとって産業革命とはなんであったか

9. **退職者に記念品を贈呈する**

10. **卒業生に記念品を贈る**
学友会規約を配布する
三千円程度のものを贈る（準会員の意見を聞く）

11. **積立金（学友会館設立積立・奨学金積立）について**
継続する

12. **奨学金支給をする**

13. **OBへの福利厚生**
長島温泉割引き（適切なものがあれば随時考える）

1995年度　収支計算書

1995年8月1日～1996年7月31日（単位：円）

科　目	'95年予算額（イ）	'95年決算額（ロ）	予算超過額（イ）－（ロ）	備　考
Ⅰ.収入の部				
基金運用収入	600,000	548,129	51,871	
会費収入	14,000,000	14,235,000	▲235,000	
事業収入	0	0	0	
雑収入	300,000	170,847	129,153	
受取利息	200,000	74,289	125,711	
雑収入	100,000	96,558	3,442	
当期収入合計（A）	14,900,000	14,953,976	▲53,976	
前期繰越収支差額	34,643,807	34,643,807	0	
収入合計（B）	49,543,807	49,597,783	▲53,976	
Ⅱ.支出の部				
事業費	10,081,152	7,937,052	2,144,100	
会報制作費	1,500,000	1,986,256	▲486,256	
＊予備費充当	486,256		486,256	
特別企画費	2,000,000	2,025,456	▲25,456	
＊予備費充当	25,456		25,456	
記念品費	2,400,000	2,223,900	176,100	
	▲130,000		▲130,000	
支部活動費	600,000	0	600,000	
広報費	150,000	98,000	52,000	
補助金	200,000	50,000	150,000	
福利費	2,000,000	704,000	1,296,000	
奨学金	600,000	600,000	0	
事業雑費	50,000	249,440	▲199,440	
＊予備費充当	199,440		199,440	
会議費	2,620,907	1,502,897	1,118,010	
総会費	400,000	670,907	▲270,907	
＊予備費充当	270,907		270,907	
役員会費	350,000	53,500	296,500	
役員会旅費	1,500,000	778,490	721,510	
役員懇親会費	100,000	0	100,000	
事務費	2,060,063	1,865,312	194,751	
人件費	500,000	410,000	90,000	
通信印刷費	1,500,000	1,420,058	79,942	
事務用品日	10,000	10,063	▲63	
	63		63	
事務雑費	50,000	25,191	24,809	
雑支出	180,000	180,000	0	
慶弔費	50,000	50,000	0	
弔慰費	0	130,000	▲130,000	
	130,000		130,000	
基金財産設定支出	3,000,000	0	3,000,000	
学友会館建設基金	2,000,000	0	2,000,000	
奨学金積立基金	1,000,000	0	1,000,000	
予備費	1,000,000	982,122	17,878	
	982,122		982,122	
当期支出合計（C）	17,960,000	11,485,261	6,474,739	
当期収支差額（A）－（C）	▲3,060,000	3,468,715	▲6,528,715	
次期繰越収支差額（B）－（C）	31,583,807	38,112,522	▲6,528,715	

監査報告書

平成7年度の学友会会計に関し、貸借対照表及び収支計算書を平成7年9月20日総勘定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適法且つ適切でありました。

監査役　佐　藤　一　夫

監査役　吉　田　豊　彦

貸借対照表

1996年7月31日現在（単位：円）

科　目	1994年度（A）	1995年度（B）	増　減（A）－（B）
資産の部			
流動資産	31,652,896	34,567,360	2,914,464
現　金	20,978	21,946	968
普通預金	12,905,181	15,759,646	2,854,465
定期預金	18,726,737	18,785,768	59,031
固定資産			
特定目的資産	41,706,259	42,254,388	548,129
学友会館建設定期預金	27,072,055	27,427,335	355,280
奨学金積立定期預金	14,634,204	14,827,053	192,849
有形固定資産	1,477,711	1,477,711	0
器具備品	1,477,711	1,477,711	0
資産の合計	74,836,866	78,299,459	3,462,593
負債及び正味財産の部			
負　債	36,122	30,000	▲6,122
流動負債	36,122	30,000	▲6,122
未払金	36,122	30,000	▲6,122
正味財産	74,800,744	78,269,459	3,468,715
（うち特定目的資産）	41,706,259	42,254,388	548,129
（うち正味財産増加額）	2,507,293	3,468,765	961,472
負債及び正味財産の部合計	74,836,866	78,299,459	3,462,593

第七回　文化講演会

一九九六年十月二六日（土）に母校二一三教室で第七回文化講演会が行われました。

「産業革命とは、人類にとって何であったか？」と題して、国立民族学博物館教授・端信行先生をお迎えし、一万年前に始まった農業革命から十八世紀の産業革命、そして現代の産業革命といわれる情報化革命に至るまでについて講演いただきました。当日は大学祭も同時に開催されており、講演開始の数時間も前から来校されていた聴講者も含め、およそ八十名程の参加者となりました。

学友会としては、今後もこの講演会を続け、地域の方々に感謝の気持ちを表していきたいと考えております。

最後に、端先生の言葉によれば、情報化社会によって国境を越えた社会が発達し、人々が自由に移動する、そんな世界になってゆくであろうとのこと。母校でも、来年は中国からの多数の留学生が入学する予定となっており、世界がますます狭くなっていくようです。

編集後記

会員の皆さんお元気ですか。

本学が開学して三十周年を迎えました。

一言で三十年といってもその間、様々な事があったと思います。また同窓生子女の学生もたくさん見かける様になり歴史を感じます。

その様な中で学友会報も第十六号を発刊することができました。

今後も、会員の皆様へ大学の情報をお届けしていきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

最後に、発刊にあたりご協力いただきました方々に心より厚くお礼申し上げます。